

令和 8 年度 第 1 回淡路市自分ごと化会議 議事概要

開催日時：令和 8 年 7 月 25 日（土）13 時 30 分～16 時 30 分

開催場所：淡路市役所

出席者：委員 18 名

テーマ：「ごみの減量化」

1. 市長挨拶

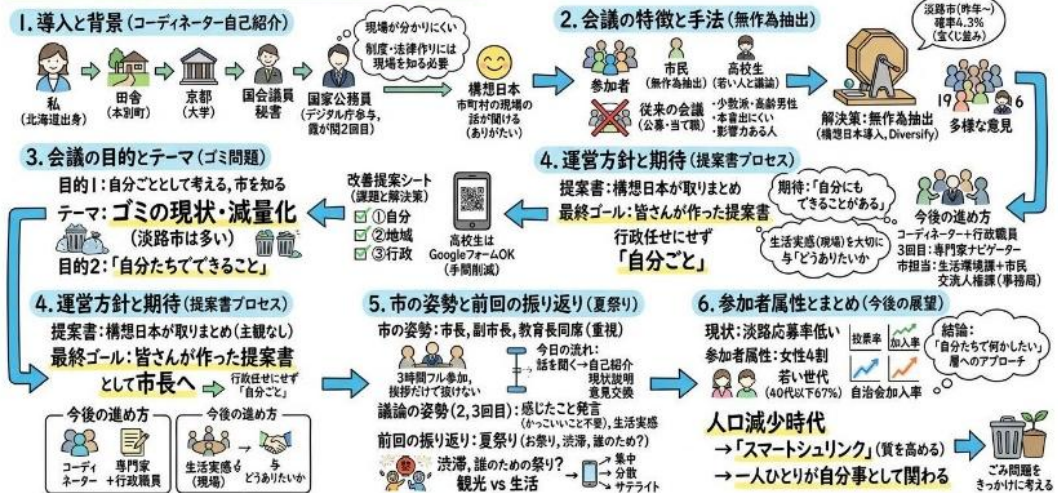
- ・淡路市の人口は現在約 4 万人であるが、20 年前に比べて 1 万人減少しており、2040 年には約 3 万人になる見込みであるとの厳しい現状が示された。さらに、そのうちの約 45%が 65 歳以上となるという人口動態の変化も予測されている。
- ・こうした人口減少や複雑化する社会課題に対し、行政だけで解決するのは困難であり、市民一人ひとりが活躍し、豊かさを実感できる基盤を築く必要がある。
- ・市の基本方針として「全ての市民の可能性を高め、全ての市民が輝く淡路」を掲げており、その実現のためには市民とともに未来をつくる共創の理念が不可欠である。自分ごと化会議はその一丁目一番地としての位置づけであり、生活に直結する「ごみ」をテーマに、委員から自由に忌憚のない意見を出してほしい。

2. 自分ごと化会議についての説明（構想日本）

コーディネーター（構想日本：伊藤）より、自分ごと化会議の主旨等が説明された。

- ・自分ごと化会議の最大の意義は、無作為抽出で選ばれた多様な市民が参加すること。行政の会議では公募やあて職（各種団体の代表者）が多くなる傾向があるが、今回は 18 歳から 79 歳までの市民 1,300 人に案内を送付し、応募した 19 名と高校生 8 名が集まっている。これにより、普段は市役所との接点が少ない層の声や、生活実感に根ざした意見を拾い上げることが可能となる。
- ・自分ごと化会議にはあらかじめ用意されたシナリオや結論はなく、全 4 回の会議を通じて、委員が感じた課題やアイデアをもとに議論を重ねていく。
- ・毎回「改善提案シート」を委員に記入してもらい、「自分にできること」「地域でできること」「行政ができること」を整理していく。最終的には、行政ではなく委員自身の意見をまとめた「提案書」を作成し、市長へ直接手渡すことが最終目標となる。

テーマ：自分ごと化会議について（構想日本）



「自分ごと化会議について」まとめイラスト

※AI を活用したグラフィックレコード生成（『Recogra』）を活用し作成

3. 委員の自己紹介・テーマに対する思い

委員一人ひとりが自己紹介を行い、日頃の生活の中でごみについて感じている思いを発言した。主な意見は以下の通り。

【観光・ポイ捨てに関する意見】

- ・淡路市は観光地として発展している分、観光客によるごみが増えている。
- ・道路沿いや海岸でのポイ捨てが気になっており、どう減らしていくべきかに関心を持っている。

【ごみ出しの困難さ】

- ・ごみを集積所まで運ぶことが体力的に困難な高齢者が増えており、家に資源ごみなどを溜め込んでしまう現状がある。

【使い捨て社会への疑問】

- ・SDGs の観点から、昔のように物を最後まで使い切り、繰り返し使う文化が失われ、ペットボトルなどの使い捨てが当たり前になっている社会構造そのものを見直す必要があるのでは。

【外国人住民の視点】

- ・日本のごみ出しルールの複雑さ（分別の種類、曜日の指定など）を翻訳して理解するのに苦労した経験があるが、言葉の壁だけでなく、「指定のごみ袋を買う習慣がない」といった文化の違いもあり、文化の共有も必要。

【市の制度への評価と懸念】

- ・エコプラザでの資源ごみ無料回収や、粗大ごみの無料引き取りは生活者として非常に助かっているが、その手厚いサービスが結果として市の多額の税金負担（コスト）に跳ね返っているのではないかという懸念もある。

4. テーマ「ごみの減量化」についての説明（生活環境課）

生活環境課より、淡路市のごみ処理の現状と減量化への取組について説明が行われた。

【現状と改善】

- ・令和 4 年度、淡路市の 1 人 1 日当たりのごみ排出量は 1,019g であり、兵庫県下 41 市町の中で最もごみが多い（最下位）状況であった。内訳は家庭系ごみと事業系ごみで概ね半々である。
- ・これを受け、草木ごみの堆肥化やプラスチックごみの固形燃料（RPF）化などに取り組んだ結果、令和 5 年度には排出量が減少し、県下 38 位まで改善。「令和元年度比 15%削減」という目標を達成した。

【ごみ処理にかかる経費】

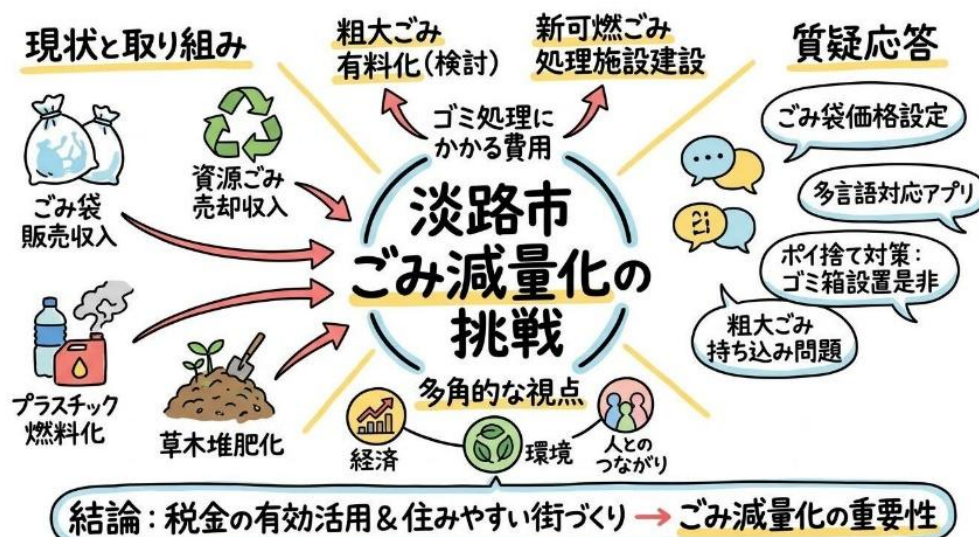
- ・現在、市のごみ処理には年間約 9 億円の経費がかかっている。内訳は、収集運搬に約 3 億円、エコプラザ等の中間処理に約 1.1 億円、現行の焼却施設（夕陽が丘クリーンセンター）の管理委託費に約 4.6 億円など。
- ・一方で、資源ごみの売却収入は約 700 万円、指定ごみ袋の販売収入は約 6,200 万円にとどまっており、支出に対して収入が非常に少ない。

【新処理施設稼働に向けた課題】

- ・現在の焼却施設は老朽化しており、令和 11 年度に南あわじ市に 3 市合同の新しいごみ処理施設が完成する予定。
- ・新施設開始年度（令和 11 年度）における運営経費の負担割合は、令和 7 年度から 9 年度の 3 年間のごみ排出量の割合に応じて決定される。そのため、この期間にいかにごみを減らせるかが、市の税負担を大きく左右する重要なタイミングとなっている。

【検討中の対策】

- ・今後の経費削減策として、収集車の手間を減らすためのごみステーションの集約化推進（軒先回収の縮減）や、現在は他市（洲本市・南あわじ市）で既に導入されている粗大ごみの有料化などを検討している。
- ・有料化により、排出抑制や負担の公平性が図られると考えるが、不法投棄や一時的な駆け込み排出などについては注意しなければいけないと考えている。



テーマ「ごみの減量化」についてのまとめイラスト

※AIを活用したグラフィックレコード生成(『Recogra』)を活用し作成

5. 議論

市の説明を踏まえ、委員による活発な意見交換が行われた。

【広報・周知の工夫】

- ・淡路市が県内で最もゴミが多いという事実を、若者や市民がほとんど知らない。広報紙だけでなく、SNSの活用、学校での出前授業の実施、防災無線の活用など、世代に合わせた積極的かつ多様なアプローチが必要。
- ・ゴミを多く出しているのは若い世代よりも、もう少し上の世代ではないか。その層にアプローチできるような情報発信も必要。

【ゴミ箱設置の是非】

- ・観光地や街中のポイ捨て対策として、ゴミ箱を設置するとゴミが減るのではないか。
- ・ただ、「ゴミ箱を設置すると家庭ゴミなどが持ち込まれ、結果的にゴミの総量が増える」「誰が回収・管理するのかという問題が発生する」など、利便性とゴミ減量の両立は難しい。
- ・ポイ捨てをなくすことを目指すのであればゴミ箱の設置になるが、ゴミを減量化することを目指すのであれば設置しない方が良いのかもしれない。

【観光収益の活用とビーチクリーン】

- ・（ビーチクリーン活動を行っている委員）ボランティアが回収した砂浜のゴミを最終的に誰が処理するのだろうか。
- ・いまはボランティアで行っているが、観光地として経済効果を得ている以上、観光客が出したゴミの処理や清掃活動に対して、観光収益を充てる仕組みがあってもよいのでは。

【分別の工夫と企業事例】

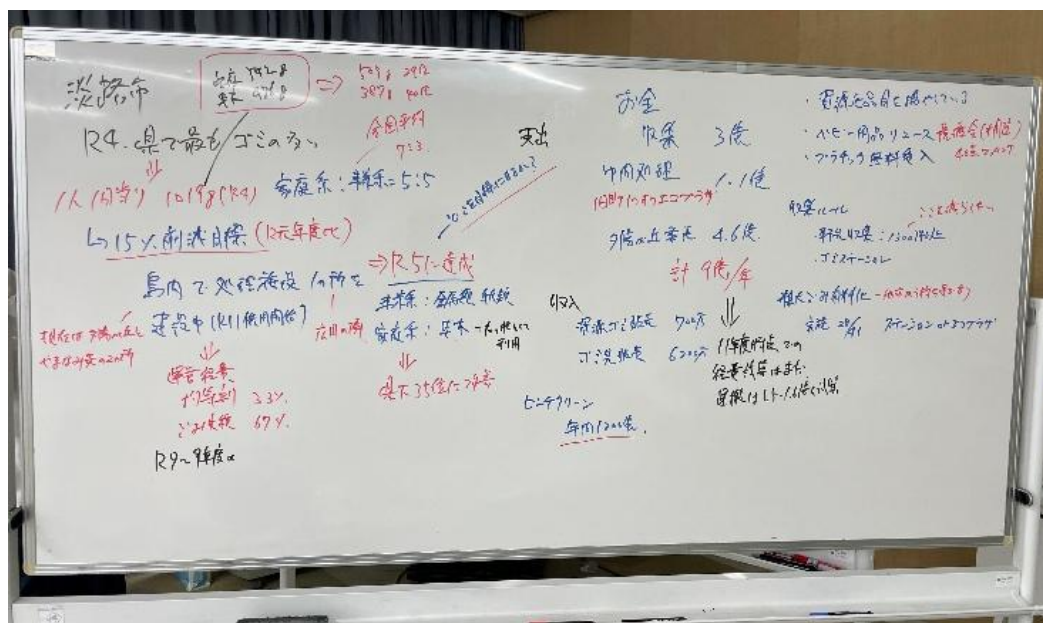
- ・（高校生）学校のごみ箱で、ペットボトル用とそれ以外が混在してしまっている。ゴミ箱の種類を増やした方が良いのではないかな。
- ・自分の会社では、同じくゴミ箱の混在の問題があったので、あえてペットボトル用のごみ箱を撤去した。すると、空のペットボトルを持ち歩かないといけなくなるので、社員はマイボトルの持参するようになった。
- ・ごみそのものを出さない（リデュース）といった工夫や、分別ルールをわかりやすく視覚化（大きな文字や絵で明示）することも有効ではないかな。

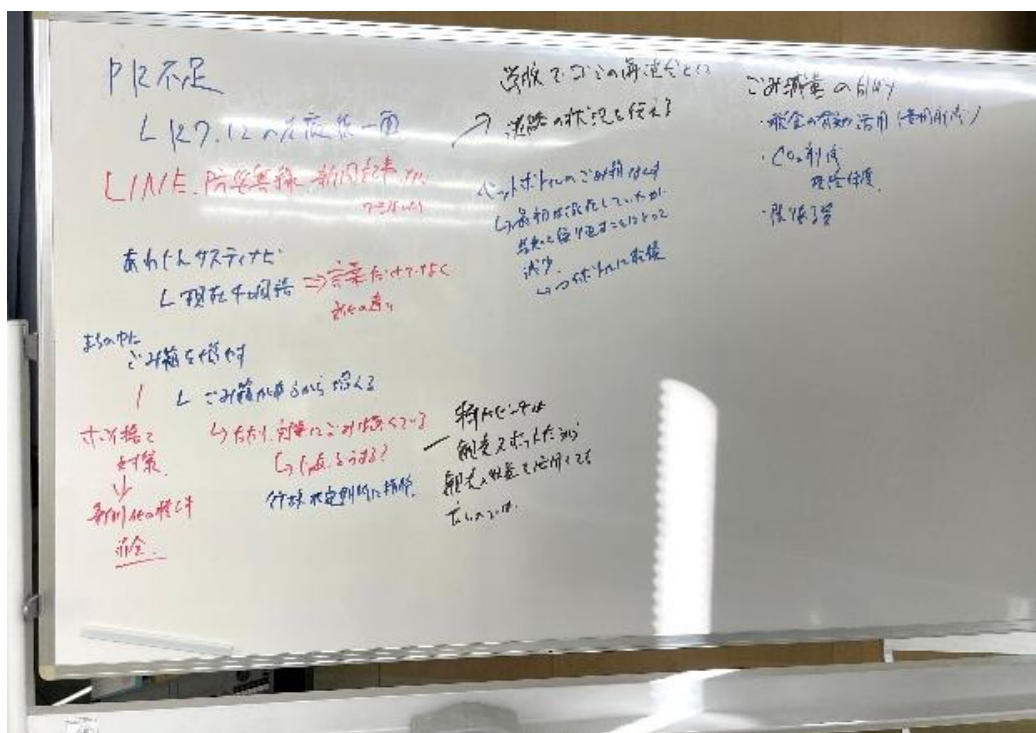
【経済的インセンティブと罰則】

- ・現在の指定ごみ袋の価格は安いのではないかな（大 45L の袋が 10 枚 440 円）。ごみ袋の価格を引き上げることで排出を抑制し、処理経費に充当することも考えられるのではないかな。
- ・ポイ捨ての抑止力として、罰則規定を設けた、ポイ捨て禁止条例の制定も考えてはどうか（条例を制定している自治体の中には、罰則規定を設けているところと設けていないところがある）。

【目的とメリットの明確化】

- ・（市担当者）ごみ減量の目的は「税金の有効活用」「CO2 削減」「限りある資源の有効活用」。
- ・市民に行動変容を促すためには、ごみを減らすことで経費（税金）が浮き、それが市民のサービス向上につながるといったメリットを明確に提示することが重要。





議論の内容をまとめたホワイトボード

6. コーディネーターとりまとめ

- ・税金の有効活用や環境保護を目的としたごみの減量化について、ポイ捨て対策や条例化の検討や、令和 11 年度の新可燃ごみ処理施設稼働に向けた排出量の目標設定や経費試算が必要である。
- ・第 2 回自分ごと化会議（8 月 22 日（土）開催）では費用面を中心とした協議から始め、「ごみの減量化に向けて自分にできること」や「市の費用削減に関するアイデア」を検討する。

構想日本

自分ごと化会議

私に関係ある？ ある！